

次年度に向けたカリキュラム・マネジメントの充実

現在、各学校では「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていただいています。ここでは、次年度に向けた「カリキュラム・マネジメント」の一例を御紹介しますので、ぜひ参考にしてください。



カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ・教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる
- ・学校教育の効果を常に検証して改善する
- ・家庭や地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

～ 子供の資質・能力を活用・発揮できる機会の設定（例）～

学校教育目標

「**かしこく** ゆたかに **たくましく**」

国語の言語能力を中心に、各教科で学んだ力を他教科や総合等で発揮できるようにすれば、子供の思考力や表現力が更に身に付くのではないかな。



自分の考えはもっているけど、うまく相手に伝えられていないので、どの教科等でも発表する機会を充実させるとよいのではないかな。

現状と課題

国語の言語能力に関する事項	読書・聞くこと	0
思考力・判断力・表現力等	書くこと	3
	読むこと	3

1	学校は、学校の教育活動や子供の様子などについて、定期的に評価を行う。
2	授業参観や学校行事などに進んで参加し、学校評価（教職員用）を行う。
3	学校は、家庭訪問や学校懇話会などを通じて、保護者や地域社会との連携を図る。
4	学校は、事故や問題が生じた際、保護者や関係機関と連携し、適切な対応を行う。
5	学校は、授業や行事などの充実のために、様々な取組を行う。

目指す子供の姿

論理的に思考し、自分の考えをプレゼンできる児童

来年度に向けて、年間指導計画を見直す際、指導内容のつながりを意識しながら、単元や題材のまとまりの中で、「プレゼンテーション力」を高められる時間を重点化していきましょう。



単元配列表の作成・活用

単元配列表の作成・活用ポイント① 単元の順序と各教科間の関連を考えて、再配列する

資質・能力が活用・発揮される場面を ① 単元間（前後関係） ② 各教科等間（横断関係） ③ 学年間（上下関係） の3つの関係で捉え、単元の順序と各教科等間の関連を考えながら、単元配列表を再配列する。

※ 作成する際は、育成したい資質・能力や 中心となる教科等、単元等などに絞ると取り組みやすくなります。

教科・領域	4月	5月	6月
国語			
算数	単元		
社会			
理科	各教科等間		
総合			
特別活動	学年間		
道徳			

こここの単元を入れ替えてみようか。



単元配列表の作成・活用ポイント② 各単元で資質・能力が発揮される場面を考える

学習指導要領の『総合的な学習の時間』に示されている「考えるための技法」等を参考に、育成すべき「資質・能力」が単元のどの学習活動で発揮されるかを考える。

- 考えるための技法
- 「順序付ける」、「比較する」、「分類する」、「関連付ける」
 - 「多面的に見る・多角的に見る」、「理由付ける」、「見通す」
 - 「具体化する」、「抽象化する」、「構造化する」

国語で優先順位をつけながらの発表をしているな。これを生かして社会の授業を構成してみよう。

参考：西部教育事務所web内 単元配列表より

上記は、「プレゼンテーション力の育成を目指す学校」の例として示しています。各学校において、全職員で目指すべき資質・能力を明確にし、教育課程の中に位置付けていきましょう。

PDCAサイクルと地域等との連携・協働

「実施時期は適切か」「時数の配当に過不足はないか」などを検証し、改善を図るとともに、家庭、地域、社会教育施設などとも「単元配列表」を共有し、教育資源の有効な利活用も視野に入れながら、学びの質を高めていくことが重要です。



総合的な学習の時間を見直す際には、「総合的な学習の時間で児童生徒も教師も楽しく探究!」（令和4年2月 義務教育課発行）を、ぜひ積極的に活用してください。

